

### 1.はじめに

作物の地下部(根)の健全な生育をサポートし、特に低温や干ばつなどの天候不良時に有効な製品として水稲や果菜類など様々な作物への利用で皆様に好評をいただいております「鬮根」シリーズの新たなラインナップとして「鬮根ゼオライト」を平成30年4月より全国発売いたしました。

育苗期の根張りや移植時の活着促進といった短期間で効果を得たい時に灌水・ドブ漬けでの使用が効果的な「鬮根242」、定植後の生育期間中に植物の状況に合わせて灌注や灌水で使用できる「根真人232」に加え、今回ご紹介する「鬮根ゼオライト」は、圃場準備の元肥施用時や、多年性作物への追肥時に合わせての使用、普段お使いの培土に混ぜて使うなど、作物生育の様々な場面で使用できる製品となっております。

### 2.「鬮根ゼオライト」の特徴

「鬮根ゼオライト」は日本古来から利用されているボカシ肥料をヒントに開発した乳酸菌培養液を、多孔質(表面に小さな穴が無数にあいている)ゼオライトに吸着させており、粒状で土壌への散布や混和が容易です。また、施用後に吸着させた乳酸菌培養液が少しずつ放出されることで、「継続的に植物の根の生育をサポートする効果」が期待できます。



### 3.使用方法

#### (1) 圃場準備時期

元肥施肥時や畝立て前に、作物の根が伸びていく場所に鬮根ゼオライトが行きわたるよう、

- ①全面施用時=20kg/10a
- ②作条施用時=畝の長さ1mあたり50~100g

を土壌表面に散布後、管理機などで土にまぜてご使用ください。



▲ 全面施用



▲ 作条施用



▲ 土壌混和作業

#### (2) 移植、定植時期

植穴に適量(10~20g、一握りで約20g)を入れた後に、苗を定植してください。



▲ 鬮根ゼオライト20g

#### (3) 追肥と混用

生育期間中や多年生作物の追肥と併せて、作条施用や散布後に土寄せをしてご使用ください。

#### (4) 培土に混和

普段お使いの種まき用培土や育苗培土に2%混ぜて(目安=培土50ℓあたり1ℓ)ご使用ください。



▲ 培土混合作業

4.使用事例

雪印種苗千葉研究農場で、「鬮根ゼオライト」をカボチャ栽培に利用した事例をご紹介します。

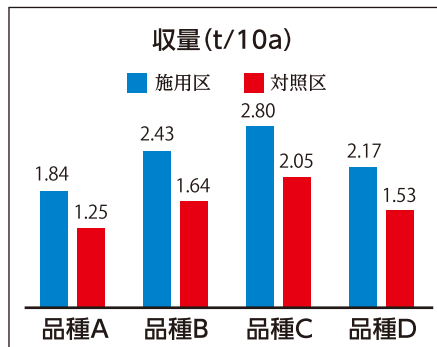
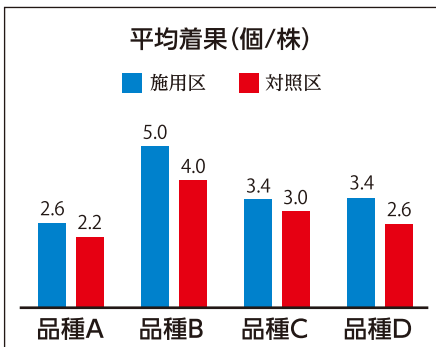
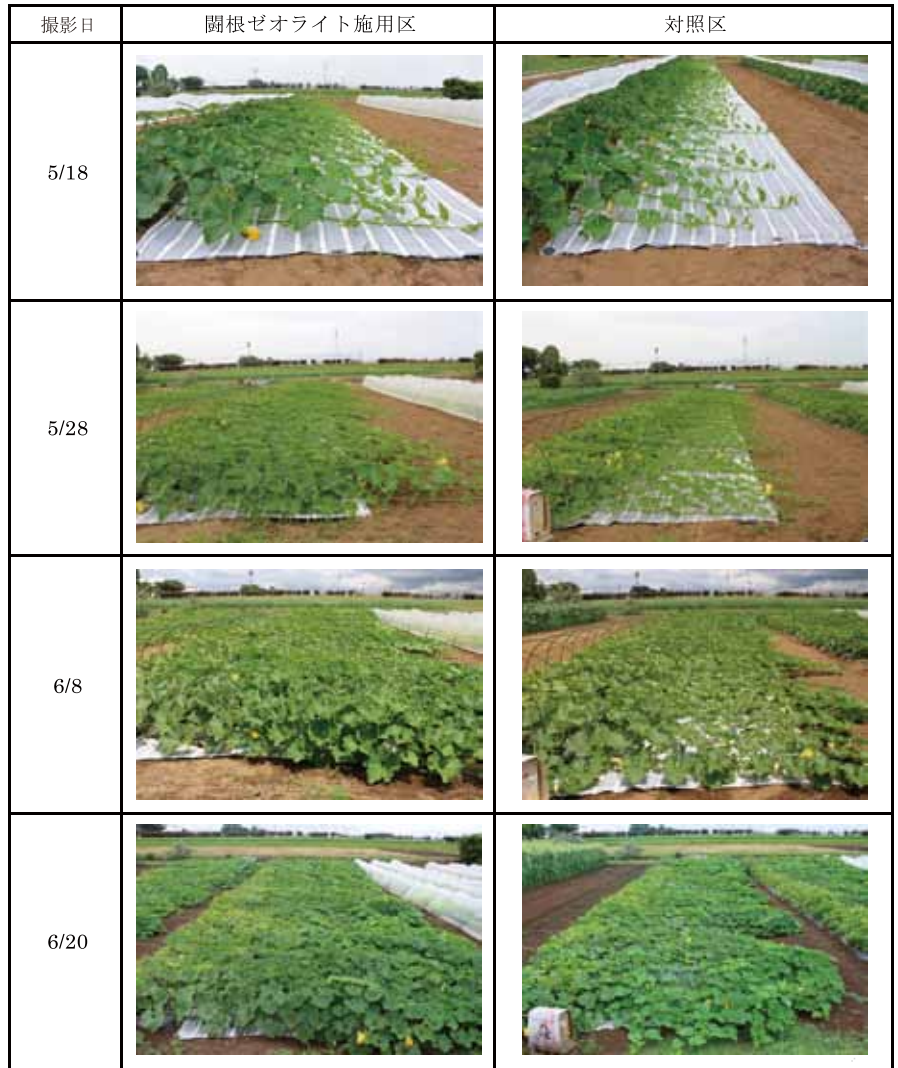
【栽培概要】

基肥 窒素 10.0kg/10a  
リン酸 13.3kg/10a  
カリ 11.7kg/10a  
追肥 窒素 2.0kg/10a  
播種日 3/16  
定植日 4/12  
(4/10に鬮根242の500倍希釈液にドブ漬け処理)  
仕立て 子づる2本仕立て  
収穫日 7/3~7/6

鬮根ゼオライトは、定植翌日にマルチの先(つるが伸びていく方向)3mの幅に20kg/10a散布した後に管理機で土壤に混和しました。

定植1か月を過ぎたころから鬮根ゼオライト施用区と対照区で、つるの伸びや葉の大きさなどに差があらわれ、結果として平均着果数で22%、収量で43%の増収となりました。

つる先に施用した鬮根ゼオライトの効果で、根張りが促されて生育後半まで健全なつるが維持されたことにより、良好な結果が得られたと考えています。



【収量調査結果】

	総果数(個)		総果重(kg)		平均果重(kg/個)		平均着果(個/株)		収量(t/10a)	
	施用区	対照区	施用区	対照区	施用区	対照区	施用区	対照区	施用区	対照区
品種A	58	44	129.0	87.2	2.2	2	2.6	2.2	1.84	1.25
品種B	25	20	42.5	28.6	1.7	1.4	5.0	4.0	2.43	1.64
品種C	17	15	49.0	35.8	2.9	2.4	3.4	3.0	2.80	2.05
品種D	17	13	38.0	26.7	2.2	2.1	3.4	2.6	2.17	1.53

定植株数 品種A=各区20株 品種B、C、D=各区5株

5.おわりに

弊社では、今回ご紹介した「鬮根ゼオライト」を加えた「鬮根」シリーズの他に、根菜専用液肥「ねぶとり君555」やホウ素供給葉面散布剤「B作」、成り疲れ防止に葉面散布で使用する「ジャックスパワー554」など、作物栽培の一助としてご使用いただける製品を取りそろえております。(各製品についてはP47~48をご参照ください。)

お気軽にお近くの弊社営業所へお問い合わせいただければ幸いです。

